

Lunchtime English Table “LET” の活動について

松村理恵*・SUSHI SUZUKI**・深田 智***
matsumura-ri@jim.kit.ac.jp, sushi@kit.ac.jp, chieft@kit.ac.jp

1. LET について (松村)

Lunchtime English Table、通称「LET」は、英語に興味がある、英語を話す機会が欲しい、将来留学を考えている等、英語に触れる機会が欲しいと思っている学生向けに、お昼休みにランチを食べながら英語で雑談をする集まりです。2017年から始まり今年で5年目になります。(図1)

コロナ禍になる前は週1回 Plaza KIT で実施しており、平均で毎週7、8名の学生が参加していました。校内でも立ち寄りやすい PlazaKIT で実施していたこともあり、多い時

には10名以上の日本人学生や留学生が参加し、グループを2つに分けて話すこともありました。

LETでは、その時に集まった学生たちが、簡単に自己紹介をした後、興味のある話題を出しあって英語で雑談をします。正しい英語を話すことを目的にはせず、思いついた英語で話してみ、周りも一緒に考え、和やかに会話が進んで行く、とても居心地の良い集まりとなっています。様々な国で生活をされてきたSUSHI准教授から異文化のお話を聞いて驚いたり、英語を楽しく学ぶためのアドバイスを深田教授に頂いたり、また、留学生が参加している場合は、彼らの母国について聞いたりとお昼休みの短い時間ですが、幅広い話題が飛び出し、参加者はみんな英語でのコミュニケーションを楽しんでいます。

コロナ禍になってからは、しばらく休止していたのですが、少し落ち着いた頃に学生からの要望があり、隔週でオンラインにて実施することになりました。(図2)

LETのオンラインルームのURLや実施スケジュールなどをMoodleに掲載してから学生に向けてメール等で告知し、その告知を見た学生

英語に興味がある、英語を話す機会が欲しい、将来留学を考えている、等英語に触れる機会が欲しい学生向けに、お昼休みのランチタイムをZOOMで実施しています。お気軽に参加してください。

デザイン・建築学系 Sushi Suzuki (sushi@kit.ac.jp)
基盤科学系 Chie Fukuda (chieft@kit.ac.jp)

9月・10月・11月スケジュール

日 程： 金曜日 9月30日、10月7日、14日、21日、28日
11月11日、25日

時 間： 12:00～12:45

ZoomURL： 国際課のMoodleに掲載しています。
※ Moodleで【LET】をコース検索 or QRコード
【学内の国際交流(講座・イベントなど)】に記載

詳細情報

LETのポスター (図1)



オンラインでのLETの様子 (図2)

* 国際課 国際専門職

** デザイン・建築学系 准教授

*** 基盤科学系 教授

が Moodle にアクセスし、LET の時間になったら URL をクリックして参加する、という仕組みです。

オンラインでは、対面以上に英語での会話に入ることが難しいこともあるのですが、一人一人が話す機会を持てるよう、SUSHI 准教授が上手く割り振りして雰囲気を盛り上げてくれています。学生たちもそれに応え、自分の言いたいことを英語で表現しようと意欲的に取り組んでいます。

頻繁に LET に参加している学生からは、「定期的に英語を話したり、会話を聞いたりしていると、その空気に慣れてきた」「雑談が苦手だったけど、間違っていたとしても気にせずに話せるようになってきた」との声が聞かれています。



Moodle での案内 (図 3)

2. LET 立ち上げに込めた思い (SUZUKI)

LET の発案者である SUSHI 准教授に、2017 年当時、なぜこの活動を思いついたのかお聞きしました。

「It's no secret that Japanese students are weak in English communication compared to other students around the world. This was

very apparent when I took the students to the Global Kickoff Workshop and EXPO for ME310/SUGAR. While students from the rest of the world were interacting with each other, Japanese students were often quiet and shy.

Reading e-mails and messages sent in English by Japanese students, I've noticed that while not perfect, there were no issues in communicated over text. This is where I realized that the Japanese education system emphasized written text over spoken words. Most students have very little practice in verbal communication and few opportunities to do so.

The Lunch Time English Table idea came up to provide that opportunity in a low commitment format, simply eating lunch and speaking English.」

(訳)

「日本の学生が世界の他の学生に比べ、英語でのコミュニケーションに弱いことは周知の事実です。ME310/SUGAR のグローバル・キックオフ・ワークショップと EXPO に学生たちを連れて行ったとき、これを非常に明白に感じました。他の国の学生たちが交流している中、日本の学生は静かでシャイなことが多かったのです。

でも、日本の学生から送られてくる英文の e-mail やメッセージを読むと、完璧ではないものの、文章でのコミュニケーションには問題がないことに気づきました。そこで、日本の英語の教育制度が話し言葉よりも書き言葉を重視していることが分かったのです。ほとんどの学生は、実践的に英語で口頭でのコミュニケーションをすることもなければ、その機会もほとんどないようなのです。

Lunchtime English Table のアイデアは、気軽にランチを食べながら英語を話すという機会を、学生に負担の少ない形で提供するために考え出されたものです。」

SUSHI 准教授より国際課にこのご提案を頂き、それを基盤科学系言語学科目の深田教授にご相談したところ、大変興味を持って頂き、



SUSHI 准教授手作りの小さな木製看板 (図 4)

LET の立ち上げにご協力頂けることになりました。以来、ずっと参加して頂いている深田教授に、LET の良さや意味をお聞きしました。

3. 本学の英語教育における LET の意味：英語での「雑談力」を培う (深田)

「雑談」と聞いて皆さんはどう思われるでしょうか。ざっくばらんに何を言ってもよい気楽なおしゃべり、という感じでしょうか。

情報工学の分野では、ここ数年、雑談対話システムの開発が盛んに行われています。なぜ「雑談」が重視されるのでしょうか。

「雑談」は、語学の教室で見られるような〈質問—応答〉といった特定のパターンだけで成り立っているわけではありません。雑談は、誰からともなく始まり、たとえそれが受け手にとって想定外の話だったとしても、時に話を振られ、返事に窮していてもそんなことは大して気にもされず、一つの話から別の話題へと際限なく展開していきます。明確なゴールや正解はないままに進むことも多々あり、互いに自由に、でも、互いの様子に気を配りながら、思ったことや考えていることを伝え合います。雑談は、このように、ことばを使って互いの経験や知識、感情や感覚などを理解・共有していくための手

段と考えられます。でもこれができるのは、人が社会性を備えた存在だからこそ。そしてこの社会性は、まさに、赤ちゃんの頃からの日々のリアルなコミュニケーションの実践とその継続の中で培われていくと考えられます。

LET は、授業では獲得しにくい、英語での雑談力の獲得・強化の場です。世の中には、自分の知らないことがたくさん。ゴールや正解がないこともたくさん。でも一人の人として、互いの経験や知識、感情や感覚などを理解し共有するために、知りたければ知らないということ、また、あるテーマについて思うことがあればそれを、英語で伝えていく必要はあります。LET での雑談は、英語も 1 つの言語であること、そして、その獲得は人同士のやりとりの実践に根差していることをあらためて認識させてくれます。

また LET では、時に、教室では聞くことのできない学生の意見を聞くことができます。先日の LET では、learning と studying の違いが話題になりました。認知科学の分野では learning は「学習」と訳され、盛んに研究されてきていますが、studying は（教育関係の研究ではない限り）あまり取り上げられることはありません。先日の LET では、ひとまず、studying は learning のための一形態、ということに落ち着いたのですが、そこに至るまでの「雑談」の中で、studying は教師に強要される (forced) もの、という意見も学生から出て、少なくとも自分は強要はしていないつもりだけれどなあ…と密かに苦笑していました。

コロナ禍でオンライン開催が続いていますが、オンライン開催にはオンライン開催なりの利点があると感じています。オンライン開催時には、話の内容がよく分からない場合には、すぐにインターネットにアクセスし、自分なりにさらなる情報を得ながら雑談に参加することができます。また、得られた情報や資料が他者と共有したいような内容であれば、それを画面共有し、互いに理解を深めていくことも、そこから新たな話題へと移っていくこともできます。資料へのアクセスが容易になったことで、不安なく話題についていくことも可能になり、話の幅も広がっているように思います。

身構えずに、でも他者と協同・協調しながら、即興的なことばでのやりとりを楽しむ—ことばが身につくには、そのプロセスが大事なような気がします。英語でもそれができるようになる

と、世界が少し広がるのかもしれませんが。そしてLETは、この種の授業ではできない「雑談」を通して、人とのかかわり方とその妙をlearningできる場だと思います。